

代々木高等学校 学校経営の目標についての自己評価

2026（令和8）年4月～2027（令和9）年3月

<p>1 学校教育目標（目指す学校像）</p> <p>○生活背景や学習歴及び進路希望等が多様な生徒が安心して安全に学ぶことができる学校</p> <p>○基礎基本の知識・技能や主体的に課題解決に取り組もうとする意欲等、これからの社会で生き抜いていくことができる学力を身に付けることができる学校</p> <p>○地域の良さを教育に生かすとともに持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成する学校</p>	
<p>2 現状と課題</p>	
<p>(1) 生徒について</p>	<p>通信制高校では、近年、生徒一人ひとりの多様な事情や目標に応じた学び方が求められている。基礎基本の確実な定着を目指す生徒や、集団での学習が苦手な生徒、毎日の通学が難しいものの限られた日数であれば登校可能な生徒が増えており、それぞれが計画的に学習を進めながら、高校3年間を有効に使おうとしている。また、進路について真剣に悩み、進学や就職の相談を求める生徒も多くなっている。宿泊を伴う集中スクーリングでは、普段出会えない仲間との交流や新たな発見を通して、自らの成長を実感する生徒の声も多く聞かれる。2025年5月1日時点での在籍生徒数は1256名と増加傾向にあり、全国32都道府県から生徒が集まり、中でも愛知県出身の生徒が最も多く262名を占めている。</p>
<p>(2) 教職員と組織について</p>	<p>本校では、県内の生徒を対象に年間30回の通常スクーリングや9回の宿泊集中スクーリングを実施しており、その他にも東京・名古屋・岐阜・大阪・北京都・熊本といった各地でのスクーリングも行われている。また、レポートの添削や個別スクーリング、補講など多岐にわたる教育活動が継続的に実施されており、教育計画は非常に過密である。こうした状況の中でも、生徒一人ひとりの多様なニーズに柔軟かつ的確に対応し、学習指導・生徒指導・進路指導のさらなる充実を図るべく、指導方法の工夫と改善に日々取り組んでいる。</p> <p>教員数の増加により、組織体制の一層の強化が進められている。若手教員はもちろん、経験豊かな教職員に対しても、教育的課題への理解を深めるとともに、課題解決に向けた実践力を高めるため、さまざまな研修が計画的に実施されている。さらに、校務分掌の体制についても、主任を中心に適切な組織編成を進め、責任分担の明確化と組織力の向上が図られている。今後も、多様化する生徒の実態とニーズを的確に把握しながら、教育目標の達成とさらなる生徒増を目指し、校務分掌の細分化と教職員一人ひとりの役割の明確化を進め、強固で柔軟な組織体制の構築に努めていく。</p>
<p>(3) 学校の在り方・教育の特色、地域との連携について</p>	<p>本校は通信制高等学校として、生徒一人ひとりの多様な学びのニーズに応える柔軟な教育を提供している。特にスクーリングでは、地域資源を活かした特色ある学習活動を展開しており、真珠の学習やシーカヤック体験などを通じて、自然や産業への理解を深める機会を設けている。これらの体験型学習は、生徒の主体的な学びを促すとともに、学校への愛着や自己肯定感の向上にもつながっている。今後はこれらの特色ある教育内容や方法をさらに充実させ、「生徒が行きたい学校」「保護者が行かせたい学校」、そして「地域から信頼され必要とされる学校」の実現を目指す。また、進路指導の充実を図る上で、地域との連携を一層強化していく必要がある。地元企業や団体への積極的な働き掛けを通じて、職場体</p>

験やインターンシップ、講話などの機会を拡充し、生徒が地域での将来を見据えた進路選択ができる環境づくりを進めていく。教育活動と地域社会とのつながりを深めながら、共に成長していく学校づくりを推進していく。

3 中長期的な重点目標

(前述の課題を踏まえて)

- ・多様な生徒ニーズに対応した個別最適な学びの実現
生徒一人ひとりの背景や学習スタイルに合わせた柔軟な指導体制の整備を進め、基礎学力の定着から進路実現まで幅広く支援。
- ・スクーリングの質的・地域的な充実と体験的学習の推進
宿泊型や地域資源を活かしたスクーリングをさらに充実させ、生徒の主体的学びと自己肯定感の向上を図る。
- ・進路指導と地域連携の強化によるキャリア教育の深化
地元企業・団体との連携を深め、職場体験・インターンシップ・講話などを通じたリアルな進路支援体制を構築。
- ・教職員の専門性向上と柔軟な組織体制の構築
若手からベテランまで研修を充実させ、教育的課題への対応力と実践力を高めるとともに、校務分掌の明確化による効率的な運営を目指す。
- ・ICT活用と遠隔教育の質的向上による学習機会の拡大
地理的制約を超えた教育提供の拡充を図り、全国からの生徒の多様な学習スタイルに応える通信制教育の質を高める。
- ・「選ばれる学校」づくりの推進
生徒・保護者・地域から信頼される学校像を確立し、魅力ある教育活動の発信と生徒募集体制の強化を図る。

4 本年度の計画（2025年4月～成果と課題は年度末に記載）

項目	取組内容・指標	結果と自己評価	成果と課題
(1) 生徒について	<p>個別最適な学習支援体制の構築として、生徒一人一人に合わせた年間・月間の学習計画を策定し、柔軟な登校形態を提供していく。</p> <p>月1回のスクーリング型、週1～2日の登校型など、各生徒に合った登校スタイルを準備。また、定期的なZoom個別学習指導により、基礎基本の反復定着を支援していく。</p> <p>キャリア教育の強化には、進路ガイダンスやOB・OG講話をオンライン・対面で実施し、キャリアポート</p>	<p>スクーリングや個別指導を通じて生徒一人ひとりに合わせた学習環境を作ることができた。レポートへの取組や面接指導への参加を促すことで、90%以上の生徒が卒業することができた。</p> <p>生徒の状況に応じて、別日での面接授業対応など、柔軟な対応によって単位の取得ができた生徒がいた。</p> <p>多様なキャリア教育に参加することで、生徒</p>	<p>レポートの提出が遅れる、または出せない、面接指導に出席できない生徒がいた。担任を中心に保護者や本人と電話で話し、生徒の状況を把握して提出、出席を促した。</p> <p>キャリア教育に参加したアンケートからは「理解できた」「興味をもって話を聴けた」との回答が多くあった。また、真珠の取り出し体験などに参加した生徒から「志摩市ならで</p>

	<p>フォリオを活用して生徒の成長を促進していく。地域別の就職支援ネットワークも構築し、地元就職情報や面談体制を整える。</p> <p>社会性を育むためには、宿泊スクーリングや少人数グループワークを通じて、他者理解と交流の機会を増やす。オンライン生徒会活動を活性化し、自治力や協調性を育成していく。</p> <p>ICTを活用し、学習管理システム(LMS)を強化して学習の見える化を進め、教員のICT研修や通信環境サポート制度を整備し、学習環境の質向上を図る。</p>	<p>は自分の将来について考えるきっかけとなった。また、今年度は修学旅行も行い、集団行動の力をつける機会となった。</p> <p>宿泊スクーリングやグループワークでは、仲間とともに行動することで協調性を養うことができた。特別活動の中では、笑顔で集団の中で触れ合う姿が見れた。</p> <p>ICTを活用することで、重要な点を視覚化したり、考える時間や発表の時間を作ったりすることができた。</p> <p>個別学習では、参加する生徒と教員の信頼関係ができ、生徒にとって安心して学べる機会になっている。</p>	<p>は体験をすることができた。」などの肯定的な感想があった。</p> <p>グループワークでは、本人の特性や中学校での不登校等体験から自分を表現することに難しさを感じる生徒の姿も多く見られた。しかし、今後も集団で活動し、学ぶ機会を通じて、彼らにも他者と触れ合い、自分を省みたり自分を表現したりする機会を作っていく。</p> <p>個別学習については、参加者が限定されているので生徒に興味のあるテーマを複数用意するなど、新たに「よよこプラス」として運営し、参加を促していく。</p>
<p>(2) 教職員と組織について</p>	<p>教育計画の過密さを見直し、学習指導や進路指導の個別化を一層進めていく。</p> <p>特に、各地で実施されるスクーリングにおいては、生徒の学びを深めるため、地域ごとの特色を生かした指導方法を取り入れ、柔軟な対応を行う。さらに、教員数の増加を活かし、若手教員の実践力を向上させる研修を強化し、ベテラン教員と連携して多様な指導法を共有していく。校務分掌においては、組織力を高め、役割分担を明確にすることで、効率的な運営を図り、</p>	<p>計画性を高める（早く提案するなど）ことで、教職員は余裕をもって生徒への指導にあたることもできた。</p> <p>スクーリングにおいては、面接指導施設や学習指導施設からの生徒に関わる情報を得ることで、個々の生徒の適性に応じて指導することができた。</p> <p>職員会議後の研修では、各教員が自分の得意を生かして研修を行い、他の教員の学びにつながった。</p>	<p>病休や欠勤など急な変更にも柔軟対応できるように、より計画性を高め、連携を深めることで余裕をもって働ける環境をつくる。</p> <p>生徒理解については、日常から教職員同士で生徒の様子を気にかけ、相談できる体制、雰囲気を作る。</p> <p>職員会議後の研修では、担当の教員を中心にICTの活用など実践的な研修を深めていきたい。</p> <p>校務分掌を工夫する</p>

	<p>教師間の協力体制を強化する。そして教育目標達成に向けて柔軟で強固な組織体制を構築し、生徒の満足度と成果を向上させる。</p>	<p>生徒アンケートのICT化も教員の指導の改善につながっている。校務分掌を見直すことや、ICTを活用することで教員間の連携が取れるようになった。</p>	<p>ことで、複数の教員で相談して仕事を進めたり、次年度以降に仕事を引き継げたりするようになる。</p>
<p>(3)学校の在り方・地域との連携について</p>	<p>地域資源を活用した学習活動をさらに発展させ、地域との連携を強化するため、地元企業や団体と協力し、職場体験やインターシップの機会を拡充させる。具体的には、真珠学習やシーカヤック体験など、地域の特色を活かした体験型学習を通じて、生徒の主体的な学びを促進し、学校への愛着や自己肯定感を高める。また、進路指導を充実させ、地域社会とのつながりを深めるために、地元の企業や団体との連携を進め、実社会での学びを通じて、生徒が地域での将来を見据えた進路選択をできる環境を提供していく。</p>	<p>本年度は、防災学習に地域の方も数名参加して行うことができた。防災について知識だけでなく、地域の歴史についても学ぶ機会となり、地域の方と対面で話をし、信頼関係を構築する良い機会となった。</p> <p>真珠の取り出し体験やシーカヤックの体験など地域の方を招いての特別活動に生徒は興味、関心をもって取り組んでいた。</p> <p>伊勢・志摩・松阪で複数回教育相談会を実施し直接保護者と通信制高校の仕組みについて説明する機会を持ち、代々木高校の認識を高めた。</p>	<p>教職員と地域の方とともに学ぶという機会は今後も継続して行っていきたい。</p> <p>生徒と地域の方の学びの中にも知識や技術だけでなく、地域の方の地域を愛する思いや、地域の産業を継続していきたいという願いなどの部分をより伝えられるようにしたい。</p>